■(船頭)小栗重吉　　史上最も長時間漂流した人物として知られる。
おぐりじゅうきち
蝦夷初調査・1785＝　　三河国佐久島で，農民善三郎の次男に生まれ，
田沼意次失脚1786＝ 1歳：

松平定信引退1793＝ 8歳：
ｵﾗﾝﾀﾞ正月・ 1794＝ 9歳：
のち尾張国半田村の船頭五兵衛の養子となり，

古事記伝・・1798＝13歳：飯炊役で船に乗り始める。

宣長没・・・1801＝16歳：若衆に出世，

ｱﾒﾘｶ船来航始1803＝18歳：

ｺﾞﾛﾌﾞﾆﾝ拿捕 1811＝26歳：異例の若さで船頭になり，
高田屋拿捕・1812＝27歳：
浮世床・・・1813＝28歳：尾張藩の小嶋屋庄右衛門所有の船{督乗丸}の船頭として乗組員13名を率い，酒樽・酢樽を積んで江戸に行くが，帰還する途中，*遠州灘で暴風雨に巻き込まれ遭難。この時乗組員の1人が海に転落。舵が破損したため，海流に乗って太平洋を漂流。海水蒸留法などで，真水を取るなどしてつなぐも，次々死去，
・・・・・・1815＝30歳：*生残りは重吉・音吉・半兵衛の3名のみとなった漂流484日目，アメリカ・カリフォルニア州のサンタバーバラ付近の洋上で，イギリスの商船ホーストン号に救助される。次第に英語を理解，ピケット船長の好意で，シトカからカムチャツカのペトロパブロフスクに送られ，極寒の冬を越すうち，半兵衛が病死，
伊能測量終・1816＝31歳：_最後に残った2人はピケットと別れ，ロシア船パヴェル号で択捉島へ護送。番所で取調べを受けたのち，国後島から，ノッケ岬・根室を経て，松前送り届けられ，奉行所で取調べを受け，切支丹の疑いも晴れて揚屋に拘置されている時，高田屋嘉兵衛の訪問を受ける。許されて江戸に向かい，
杉田玄白没・1817＝32歳：_江戸では霊岸島の蝦夷会所に軟禁されて，事情聴取を受けた後，身柄を尾張藩に移され，半田村へ帰郷。
水野忠成老中1818＝33歳：*家を守っていた妻とも奇跡の再会を果たし，尾張藩から5石2人扶持，名字帯刀を許され，小栗姓を名乗って番所の船役人の職を得るも，侍役人らのいやがらせに逢い直ぐに辞職。以後，死亡した乗組員の遺族を回り，供養に余生を捧げて行く。
伊能図完成・1821＝36歳：
英船浦賀来航1822＝37歳：_新城藩の家老で国学者の池田寛親の聞き取りによる口述筆記による「船長日記」が完成。鎖国下の日本における数少ない海外見聞録であると共に，長期にわたって極限状態に置かれた人間の心理が描かれた文学的価値の高い資料でもある。この他にも，ロシア人と共に生活した体験を「ヲロシアの言」に記している。
ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝39歳：この頃，*許可を得たことから，著作を売り歩いたりして得た資金を投じ，台座が廻船の形をした督乗丸乗組員の慰霊碑(船頭重吉の碑)を建立。
富籤流行・・1830＝45歳：
以後，静かに暮らして，

大塩平八郎乱1837＝52歳：

蛮社の獄・・1839＝54歳：

阿部正弘首座1845＝60歳：

・・・・・・1848＝63歳：

ペリー来航・1853＝68歳：_没した。

「知多偉人伝第1巻」，インターネット，